

令和4年度
誰一人取り残さないエンゲージメント・コミュニティの創生
実績報告書

有限責任事業組合吉備中央町インクルーシブスクエア

概要

実現したい地域の将来像「誰一人取り残さないエンゲージメント・コミュニティの創生」を具現化するため、事業領域として次のA～Eの5つを定義し、医療・母子保健・健康・福祉等の各サービスの実装および住民参画型の一元的窓口支援組織・拠点の整備を行った。A.救急医療 B.母子保健・児童見守り C.介護・高齢者見守り・移動 D.データ連携基盤 E.インクルーシブ・スクエア設立

【地域課題】

医療分野の特定診療科目（産婦人科・小児科・耳鼻科・救急対応）の不足、また、移動分野では、通院・通学・買い物などへの移動手段が不足していることが課題となっている。さらに、少子高齢化・人口減少に伴う主体的行動が低下し、コミュニティの活気が失われ、政令指定都市に隣接するにも関わらず「社会的孤立・孤独」の自己認識化が進むとともに、コロナ禍の長期化が「我が身は自分で守る」「他人に迷惑をかけない」行動の制限を強いられ、孤独感が心と身体のバランスを崩し「Wellbeing = 真の幸福」から遠くの状況に陥りつつある。

【目指す将来像】

医療・福祉・生活軸を重点に、人中心のデータ連携基盤を活用した事業サービスを実装することで、孤立・孤独のライフサイクルの変化を起こし、「個人が社会的孤立・孤独からの脱却、かつ、ひとり一人の多様な幸せ「Well-being」が確保される地域社会の実現を目指す。

さらに住民参画型で地域の個人を支える多様なステークホルダーらによる一元的窓口支援（きびコンシェルジュなんでもサポーターズ）が伴奏する社会システム「インクルーシブスクエア」を構築・運営することで、人と組織、地域のエンゲージメントの好循環を生み出し、事業実施地域社会の変容を実現する。

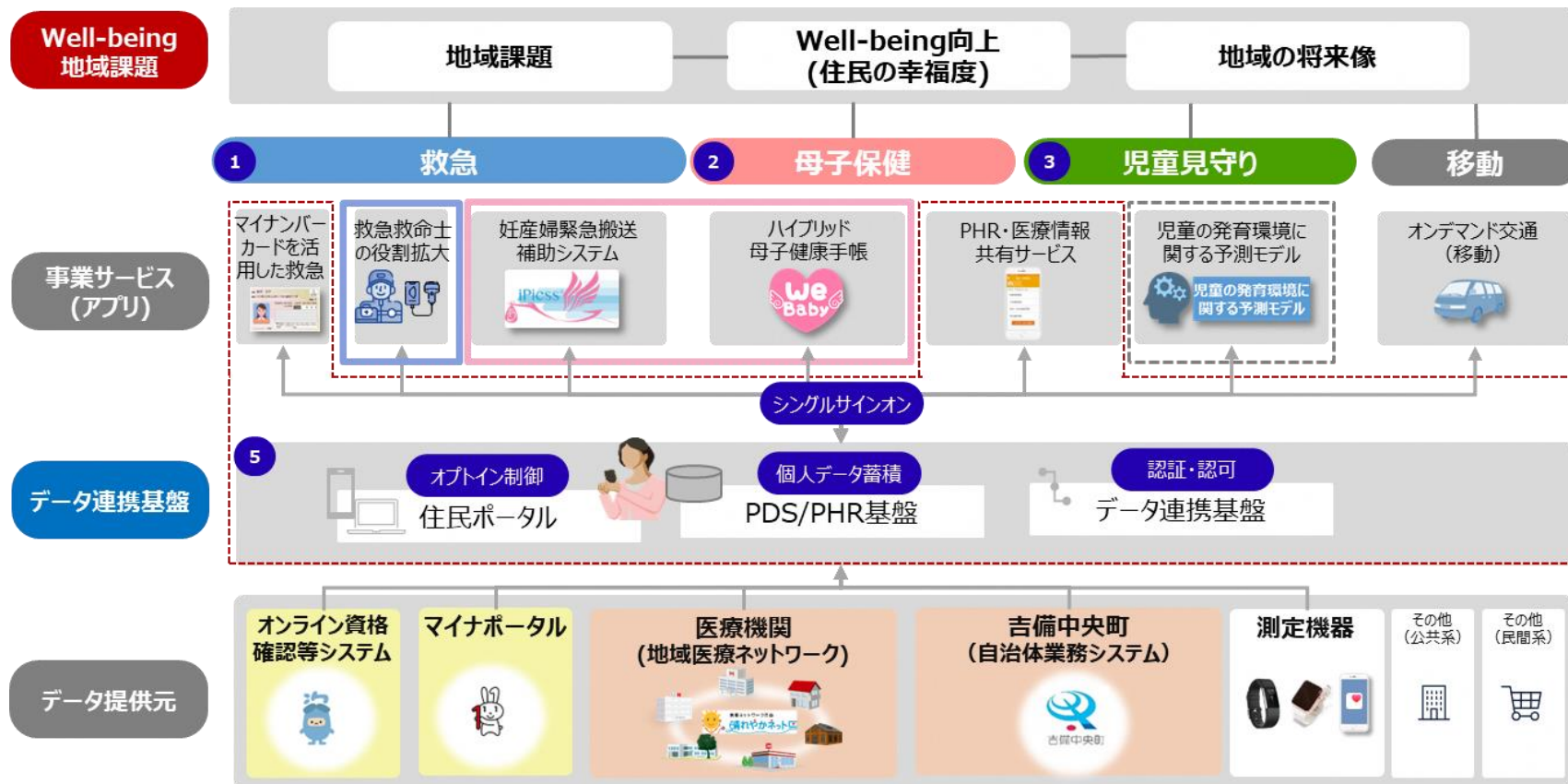
誰一人取り残さないエンゲージメント・コミュニティの創生



概要

実現したい地域の将来像「誰一人取り残さないエンゲージメント・コミュニティの創生」を具現化するため、事業領域として次のA～Eの5つを定義し、医療・母子保健・健康・福祉等の各サービスの実装および住民参画型の一元的窓口支援組織・拠点の整備を行った。A.救急医療 B.母子保健・児童見守り C.介護・高齢者見守り・移動 D.データ連携基盤 E.インクルーシブ・スクエア設立

住民のWell-being向上を目標に、データ連携基盤を活用した事業サービスの実装を目指す



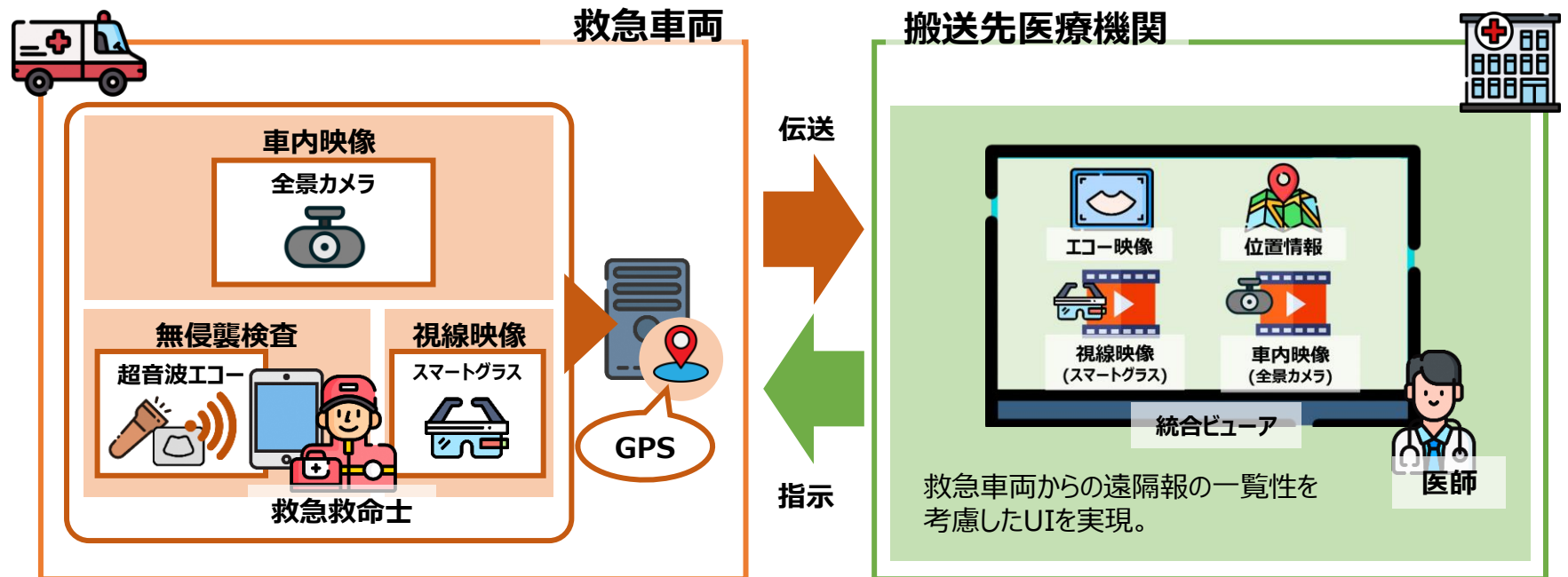
サービス実装報告①：「エコー装置による遠隔的な情報収集・伝送サービス」



デジタル田園都市国家構想
DIGIDEN

救急救命士を医療行為の前段階で情報収集を担う役割と位置づけ、非侵襲・低侵襲なセンサーを用い、搬送先医療機関の医師へレベルの高い動的情報をリアルタイムに伝送できるシステムを構築。具体的には非侵襲なセンサーとして超音波エコー装置を利用し、**超音波エコーと救急搬送時の車内の映像を伝送**。同時に超音波エコー検査を救急救命士に教育するためのコンテンツを作成し、教育を実施。

将来的に救急救命士の**処置拡大**を実現した上で、救急車両での**超音波エコー検査**を実施し、搬送先医療機関へ**エコー映像を伝送**、搬送先の**医師から指示**を受ける。同時に、処置中の救急救命士の**視線映像**と救急車両内の**全景映像**も搬送先の医師へ伝送し、検査時に参照する。また、GPS情報も共有し、車両の位置を把握できる。

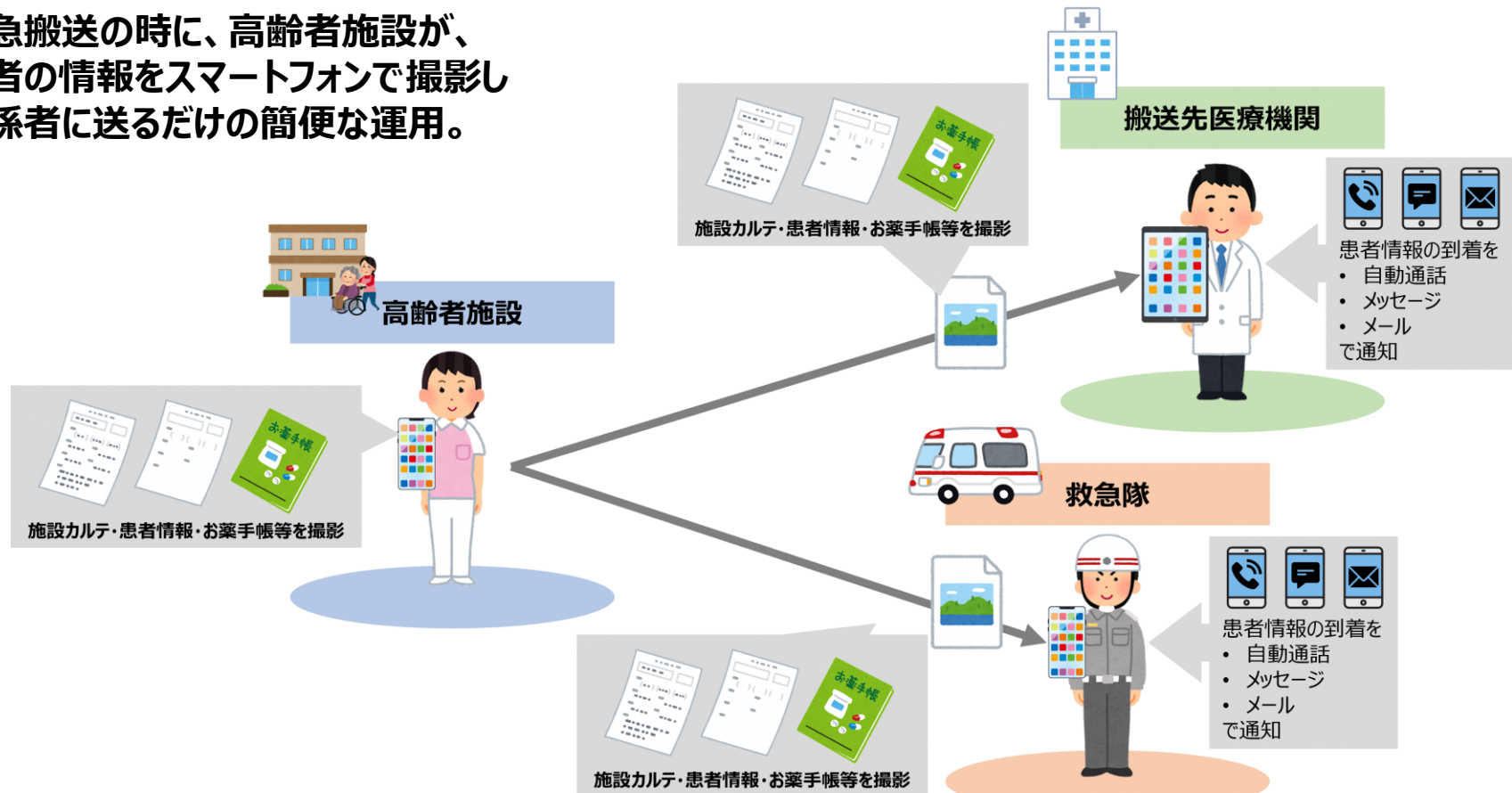


救急救命士の処置拡大が実現するまで、**岡山大学病院のドクターカー**で運用を進める。

サービス実装報告②：「施設間救急搬送支援サービス」

救急搬送に関する情報を医療機関と共有する仕組みを、岡山県内で既に社会実装されている妊産婦緊急搬送補助システム iPicss(アイピクス) ベースで構築し、救急搬送での情報共有プラットフォームと位置づけ、妊産婦から施設間緊急搬送支援サービスとして全世代・疾患領域への拡大を計画。第1段階として、岡山県がウィズコロナ時代の課題として対策が急務である、**高齢者施設から病院への救急搬送**を対象とし、初めに吉備中央町で実装した。

救急搬送の時に、高齢者施設が、患者の情報をスマートフォンで撮影し関係者に送るだけの簡便な運用。



サービス実装報告③：「母子健康手帳のデジタル化サービス」

周産期・小児医療の偏在が顕著かつ医療機関の機能分化の影響で少子高齢化が進んでいる本町では、母子医療の安心・安全を提供し、妊産婦と小児へ町全体で子育て志向強化を推進し、安心して妊娠・出産・子育てができるまちづくりを通し、次世代住民の獲得と出産数増加の仕組みを設けることが重要である。WeLoveBaby（ウイラバ）事業は、デジタルを用いたコミュニティ形成の場である。既存の母子健康手帳を写真にとるだけで自動でデジタル化するハイブリッド母子健康手帳ウイラバアプリと「子育ては社会で行う」を実現するためのウイラバペーパーを利用し、共助・公助を積極的に組み入れつつ、妊娠時の生活環境を予防医学に繋げるPHRやワクチン記録、思い出の無制限・無期限記録や、町のイベント予約・子ども一時預かりの簡単予約申請が可能である。

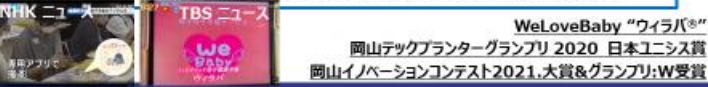
母子手帳のデジタル化と産前産後のデジタルコミュニティ形成 9.29実装



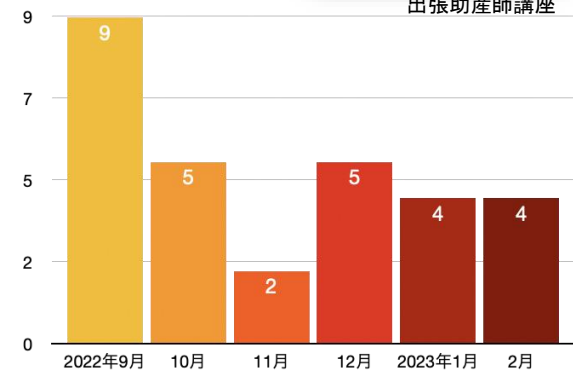
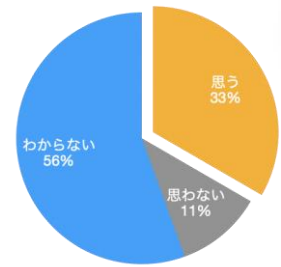
女性の着眼点を多く採用し、医師・助産師・栄養士・薬剤師が総合的に参画。大学発ベンチャーを活かし、SE、データサイエンティスト、UI/UXデザイナー等、複合型チームを構築。



UI：ウイラバペーパー：妊娠・出産・子育て中に、すこく感覚のゲーミフィケーションを採用。行政や企業から、多くのおトクを体験。「子育ては社会で行う」を町で実現。ワクチン予定やPush通知、本年9月29日の運用以降、*64.3%住民がサービス使用を継続、定期的なヒアリングによる改善を年複数回行う。利用者の満足度の向上を目指す。



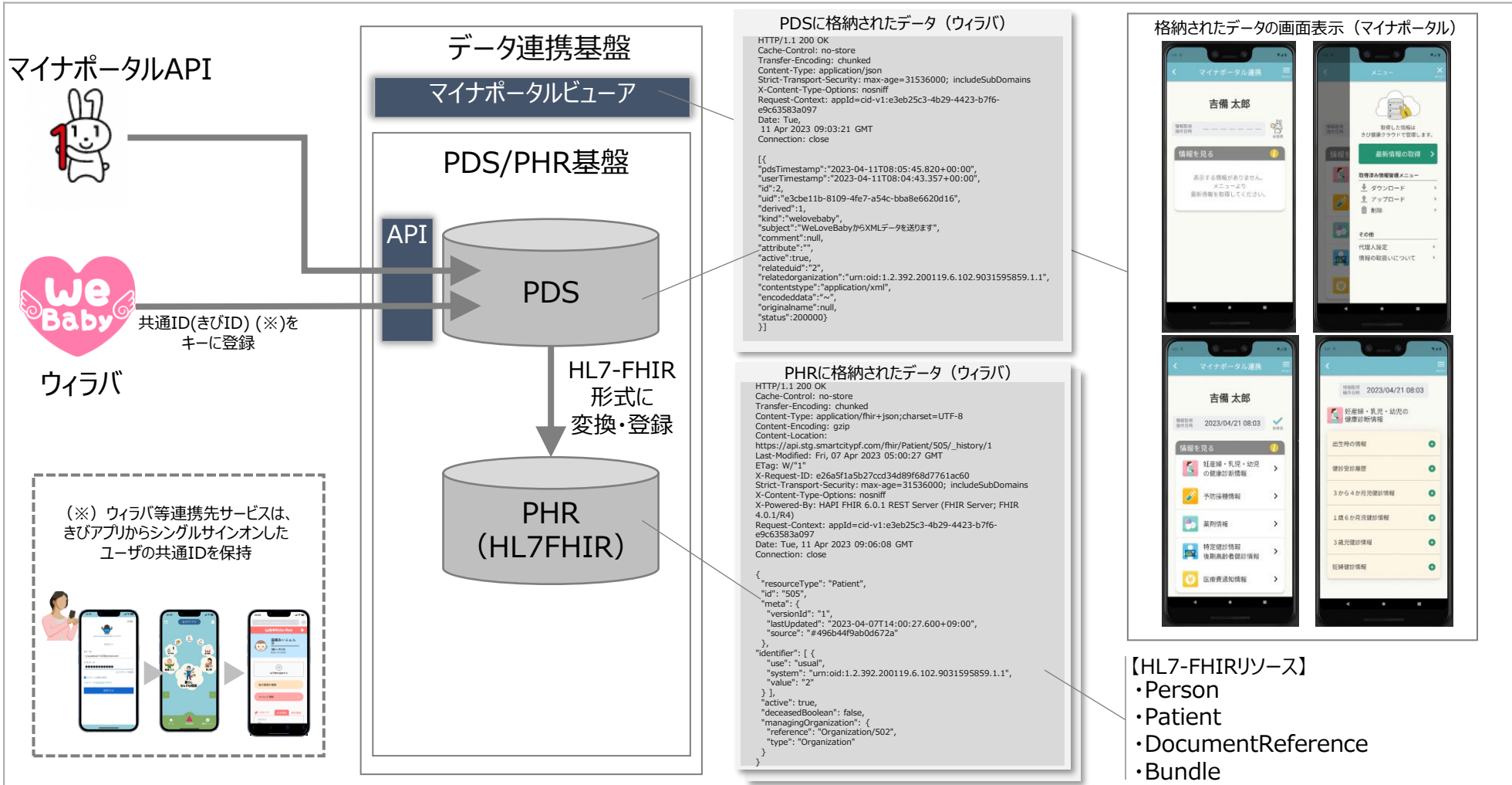
1歳を過ぎてもウイラバのサービスが受けられるなら続けたいと思いますか？



月別アプリ登録者数

サービス実装報告④：「PHR基盤サービス」

PDS/PHR基盤は、母子保健をはじめ、**各種医療・健康等情報のデータを蓄積するための基盤**であり、データの登録・更新・削除用のAPIを連携サービス事業者向けに公開・提供している。データを蓄積する領域としてPDS領域とPHR領域があり、連携サービス事業者がPDS領域にデータを登録することで、PDS/PHR基盤がHL7FHIR形式に変換し、PHR領域に格納する仕組みとなっており、各サービスからの利用、蓄積されたデータの分析等に活用する。



サービス実装報告⑤：「予防歯科クラウドサービス」

予防歯科クラウドサービスを利用し、**児童の歯科健診結果や歯科医院での治療内容を、児童・保護者や歯科医院・学校側で情報参照できるサービス。**

情報共有を行うことにより、児童の口腔ケアをサポートする。

① 保護者による利用登録



小学校で配布されたリーフレットをもとにスマホで登録します。

② 学校側の追加情報入力

・保護者が登録した情報入力（患者番号の付番）を行います。

③ 学校歯科健診の情報を学校側でアップロード

・学校健診で記入したシート（紙）をPDFにしてアップロードします。

④ 歯科医院（大森歯科医院）治療内容の登録

・治療内容の登録を行います。
※豊野小学校に複数の歯科医院を登録する場合
・歯科医院では、他の歯科医院の患者の情報が参照可能となります。



吉備アプリから**シングルサインオン**が可能
(ID/パスワードを入力せず、サインインが出来ます)



大森歯科医院で登録した情報が保護者や生徒からスマホで見れます。

(参照できる情報の例)



サービス実装報告⑥：「孤立・孤独予防サービス」

高齢者のバイタルを定期的に住民向けアプリを經由して把握をし、普段とは異なる傾向が生じた場合は連絡又は往訪をし健康状態の確認をする仕組みを構築。得られたバイタルデータはPHRデータとして有効活用する。

また、地域加盟店と協働、高齢者の見守りを兼ねた買い物支援サービスを実装。買い物支援の時、それまで計測されたバイタルデータを基に普段の生活を対面にてヒアリングし、実際の生活とバイタル情報を結び付け、より詳細な健康および精神状態の把握をする。

1 トップ画面

ボタンを押すと
コールセンターに
繋がります
(8:00~17:00)

アプリを使う

夜間(17:00~8:00)は
緊急連絡表示に変更

アプリを使って問題解決

2 ホーム画面

健康づくり
毎日の健康を
簡単にチェック!
健康体操もできます

見守りメール

暮らし
なんでも相談

テレビ電話・アプリで
家の片付け、草取りなど、
お家の困りごとを相談

暮らし
なんでも相談

買い物
テレビ電話・アプリで
日用品・食料品の
買い物を注文!

ご自宅までお届け

・地域の商店と連携し、
「なつかしの商店街」を再現した、
バーチャル商店街を連携予定
・ペリーくっどポイントと
連携予定

使い方など、
困ったことがあれば
すぐにコールセンターへ!

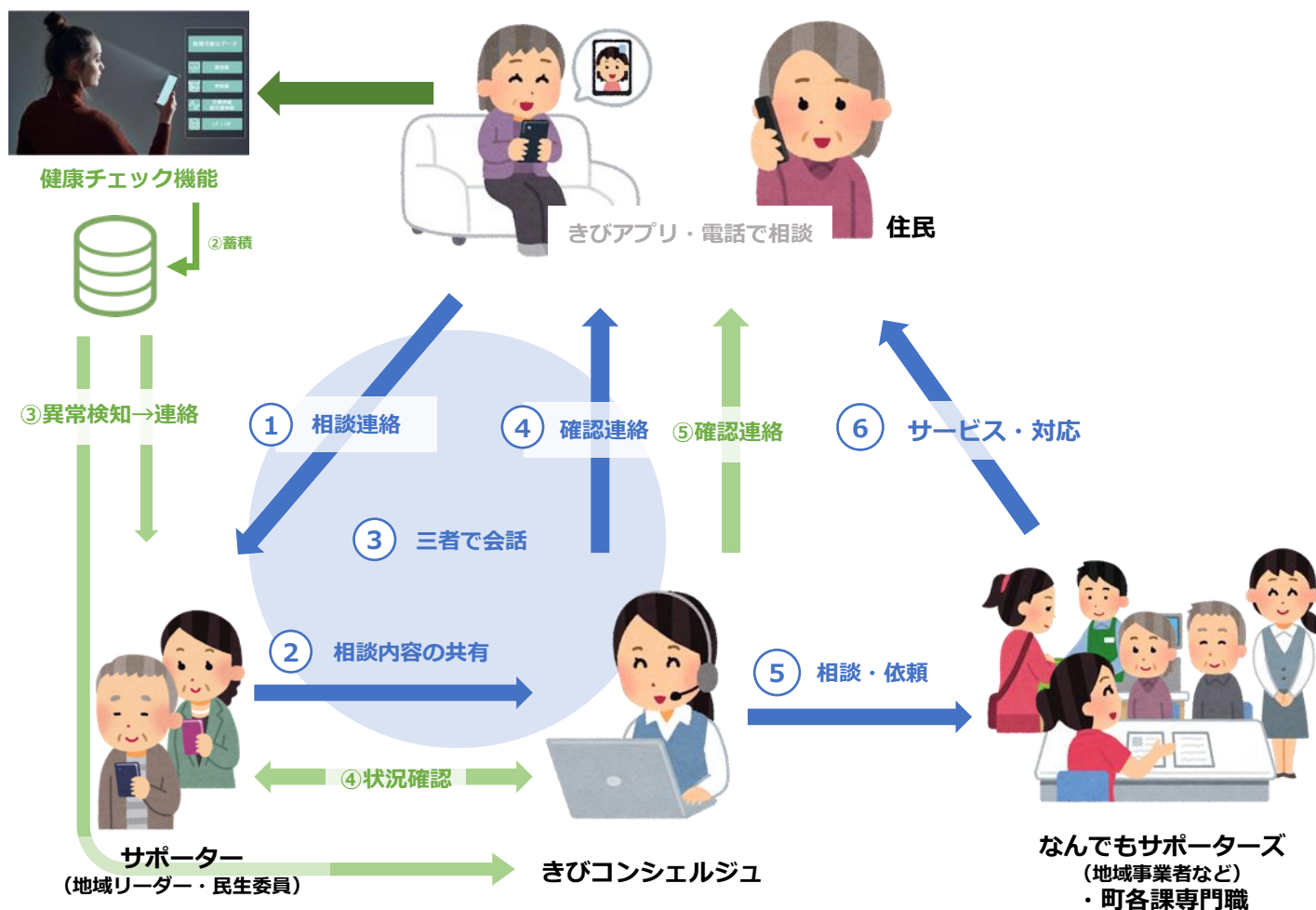
サービス実装報告⑦：「データ連携基盤サービス」

データ連携基盤サービスは、各連携サービス事業者向けにユーザ管理API、認証APIを公開・提供している。各事業者はAPI仕様に則り、ポータルアプリ「きびアプリ」ではユーザ管理機能およびログイン機能、「ウィラバ」、「オンデマンド交通」、「歯科クラウドサービス」の各連携サービスではシングルサインオン機能が実装されている。



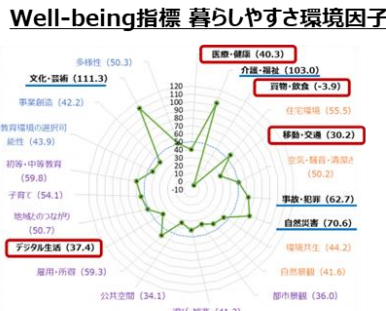
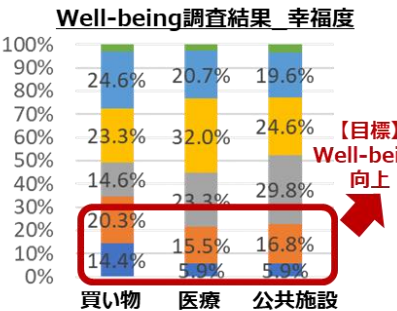
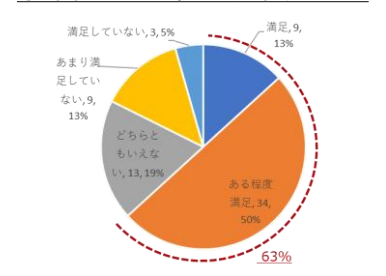
サービス実装報告⑧：「きびコンシェルジュなんでもサポーターズ」

生活相談の受付窓口「きびコンシェルジュコールセンター」を構築。合わせて遠隔で相談を受けるため、住民向けのポータルアプリ「きびアプリ」を活用し、地域企業と連携して住民の利用促進を実施。困りごとには、「なんでもサポーターズ」という登録制の地域住民が対応する。



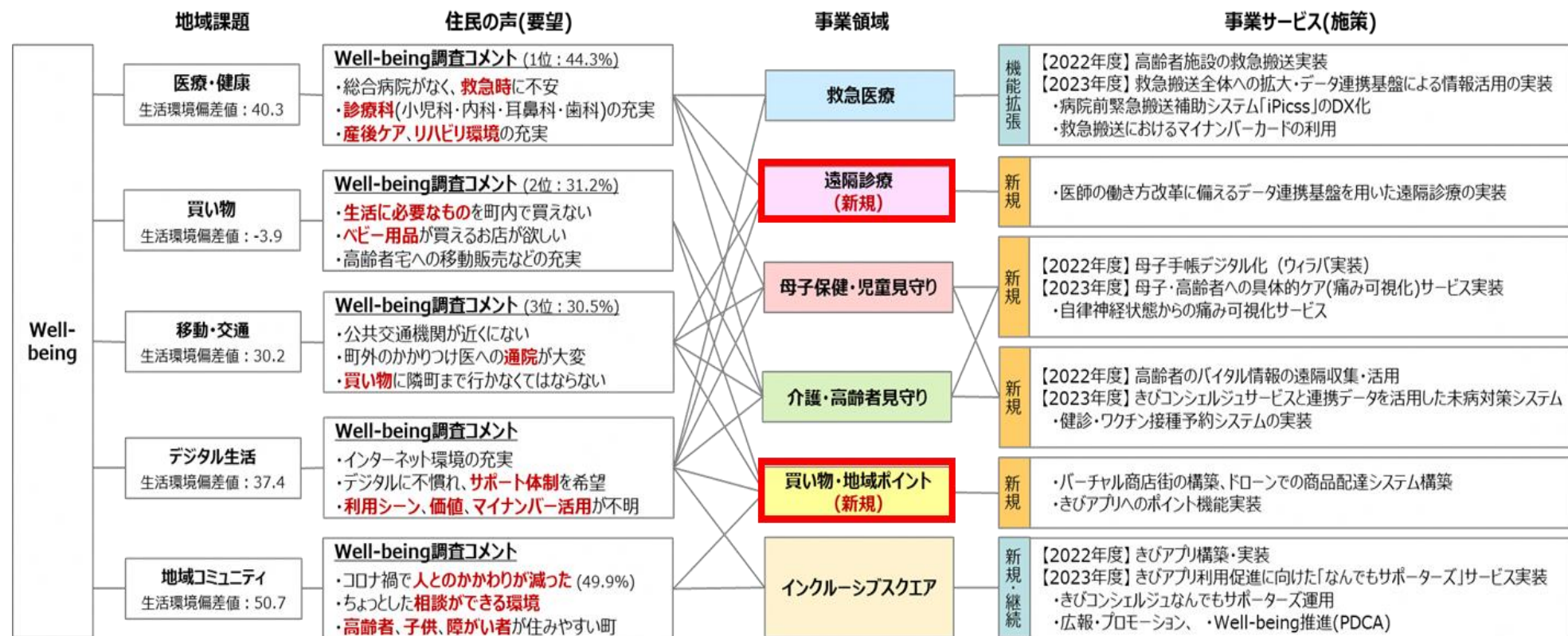
地域幸福度（Well-Being）指標の活用

令和4年度におけるWell-Being指標を活用した調査概要

Well-Being指標を活用した具体的な調査手法	成果物																								
<p>■ アンケート調査</p> <p>(1)Well-being客観指標：地域比較(近隣・都市・中山間・特区)</p> <p>(2)Well-being主観指標：全体・年齢別・地区別</p> <p>(3)事業サービスに関するアンケート調査(救急・母子・歯科・移動)</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施期間：令和4年度11月7日～11月25日 対象者：1,000名：町内の9地区/1000世帯(無作為抽出) 実施方法：郵送&WEBアンケート(設問数72問、回収率46%) <p>■ 住民へのヒアリング調査（ディスカッション含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施期間：令和4年度11月30日～3月3日 対象者：妊産婦、高齢者サロン、学校保護者、医師など 	<p>Well-being指標 暮らしやすさ環境因子</p>  <p>Well-being調査結果 幸福度</p>  <p>Well-being調査結果 住民の声（要望）</p> <table border="1" data-bbox="1574 756 1968 1028"> <thead> <tr> <th>Well-being</th> <th>要望</th> <th>順位</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療・健康</td> <td>・総合病院がなく、救急時に不安、 ・診療科(小児科・内科・耳鼻科)の充実 ・産後ケア、リハビリ環境の充実</td> <td>1位</td> <td>44.3%</td> </tr> <tr> <td>買い物</td> <td>・生活に必要なものを町内で買えない ・ペー用品が買えるお店が欲しい ・高齢者への移動販売などの充実</td> <td>2位</td> <td>31.2%</td> </tr> <tr> <td>移動・交通</td> <td>・公共交通機関が近くにない ・町外のかかりつけ医への通院が大変 ・買い物に随分まで行かなくてはならない</td> <td>3位</td> <td>30.5%</td> </tr> <tr> <td>デジタル生活</td> <td>・インターネット環境の充実 ・デジタルに不慣れ、サポート体制を希望 ・利用シーン、価値、マイナビ活用が不明</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地域コミュニティ</td> <td>・コロナ禍で人とのかかわりが減った(49.9%) ・充実した相話ができる環境 ・高齢者、子供、障がい者が住みやすい町</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>母子保健・児童見守りサービスに関する満足度</p>  <p>調査から得た具体的な示唆・独自の分析結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療環境の課題に対し、高齢者より家族の負担が大(通院で休む) ⇒ 新規に遠隔診療(産後ケア含め)、Well-Being向上につなげる 事業サービスに対する利用シーンの明確化、サポートの充実が必要 	Well-being	要望	順位	割合	医療・健康	・総合病院がなく、救急時に不安、 ・診療科(小児科・内科・耳鼻科)の充実 ・産後ケア、リハビリ環境の充実	1位	44.3%	買い物	・生活に必要なものを町内で買えない ・ペー用品が買えるお店が欲しい ・高齢者への移動販売などの充実	2位	31.2%	移動・交通	・公共交通機関が近くにない ・町外のかかりつけ医への通院が大変 ・買い物に随分まで行かなくてはならない	3位	30.5%	デジタル生活	・インターネット環境の充実 ・デジタルに不慣れ、サポート体制を希望 ・利用シーン、価値、マイナビ活用が不明			地域コミュニティ	・コロナ禍で人とのかかわりが減った(49.9%) ・充実した相話ができる環境 ・高齢者、子供、障がい者が住みやすい町		
Well-being	要望	順位	割合																						
医療・健康	・総合病院がなく、救急時に不安、 ・診療科(小児科・内科・耳鼻科)の充実 ・産後ケア、リハビリ環境の充実	1位	44.3%																						
買い物	・生活に必要なものを町内で買えない ・ペー用品が買えるお店が欲しい ・高齢者への移動販売などの充実	2位	31.2%																						
移動・交通	・公共交通機関が近くにない ・町外のかかりつけ医への通院が大変 ・買い物に随分まで行かなくてはならない	3位	30.5%																						
デジタル生活	・インターネット環境の充実 ・デジタルに不慣れ、サポート体制を希望 ・利用シーン、価値、マイナビ活用が不明																								
地域コミュニティ	・コロナ禍で人とのかかわりが減った(49.9%) ・充実した相話ができる環境 ・高齢者、子供、障がい者が住みやすい町																								
<p>● 調査結果の今後の活用方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 岡山県吉備中央町という典型的な中山間地域に暮らす人々の生活の質向上につながるよう、地域課題に基づきWell-being指標を設計し、住民アンケートを実施し、個別事業の認知度や期待度・効果の実感・課題なども合わせてモニタリング評価する。また、抽出された結果をもとに関係者・住民ヒアリングを実施、各事業のKPIの状況を含め総合的に評価することで、本事業の具体的な施策を改善し、より効果の高い事業推進を実現する。 																									

今後の事業展望について

「誰一人取り残さないエンゲージメント・コミュニティの創生」の継続事業として5領域の機能拡張を図る。また、新規事業領域として「遠隔診療」、「買い物・地域ポイント」を追加し、医療事業の充実とともに住民の利便性向上を図り、地域全体のWell-being向上を目指していきます。また、地元企業と連携した個別訪問や「きびコンシェルジュ」の窓口にて、アプリや本事業についての説明を丁寧に行い、サービスやアプリの利用をしていただく取り組みを行います。



※生活環境偏差値：Well-Being指標に基づき、オープンデータから地域の生活環境を偏差値で表したものと